



製作したクールホットベンチ

「クールホットベンチ」  
設計：伊福精密）  
があります。  
これは、左右と背面を卵形の筐体ですっぽりと覆ったユニークなベンチです。半導体素子を使って温度調整し、夏は涼しく冬は暖かくできる機能性を兼ね備えています。電源を入れると、筐体が赤や青に変わる設計も特

■ユニークなベンチ  
イベント会場のオブジェやアミューズメントパークのオフィス装飾など、身近なところで見かける造形物などは、実は同社で製作したものが数多くあります。「近年では美術品の製作をFRPや3Dプリンターで製作することもありますが」と、大久保社長は話します。  
現在、同社で最大の売りとなってい

るのが、イスラエル製の大型3Dプリンター「Massivit（マシビット）1800 pro」を活用した、新たな造形プロセスの導入です。「業界最速の産業向け大型3Dプリンターといえます。170秒の等身大モデルも9時間ほどで出力可能です」（大久保社長と云います。この3Dプリンターの製作例としては、中電工と神戸高専が共同開発（造形

大久保工芸（中央区上溝）は、店舗内装やイベントモニュメント、ディスプレイのアイキャッチ、モックアップなど、多種多様な造形物を手掛けています。中でも、各種のイベントやテーマパークで姿を見せる装飾、街角の店先を彩るキャラクターなどを得意としています。扱う材料は繊維強化プラスチック（FRP）や発砲スチロールなどがメインです。ここ数年3Dプリントも扱うようになり、特に大型3Dプリンターによる造形物の製作においては、国内でも有数の大型設備を持っています。最近では、産業用途でも引き合いが寄せられるそうです。今回はそんな同社取材しました。

## 3Dプリンターで国内有数の「大型」活用

大久保工芸 代表取締役 **大久保 亘**さん



この手も10時間で出力しました

徴です。大久保工芸は筐体部分などを担当。紫外線硬化型のアクリル系樹脂を材

料にマシビットで完成させました。今回の卵形の製作は、通常の作り方だと約20日間かかりますが、28時間という短時間で出力しました。

### ■産業用途も視野

大型3Dプリンターのマシビットは、短時間で大型の造形物が作れる特徴があるため、産業用では「試作の効率化」が期待できます。すでに自動車関係からも問い合わせがあるそうです。

「スピード勝負の仕事に対して（マシビットによる造形を）PRをしていきたいと思っています」と大久保社長。今後は既存顧客や同業者などに提案しつつ、異業種からの受注拡大を目指しています。